



富士宮市地域女性連絡会

「大きな活力をくれる、本音で語り合える、

達成感を共有できる仲間がいる場所」

議会だより編集委員会が直接話を聴いて市民の本音に迫る「あなたにスポットライト」。第二回目は富士宮市地域女性連絡会の皆さんにお話を伺いました。その活動は当時、『市の活性化の一助に』との思いから始まり、市行事への参加・協力から、独自の郷土紙芝居の制作・上演に至るまで多岐にわたり、地域社会に深く貢献しています。

今回は、その活動の軌跡と、地域への真摯な想いに迫ります。

富士宮市地域女性連絡会とは

起源は、昭和61年5月9日に発足した「地域婦人団体連絡会」にあります。当時、59地区の婦人会から約8000人もの参加者を集め、地域に大きな影響力を持つ組織としての歩みをスタートさせました。

力を入れている富士宮の歴史や伝説を題材にした紙芝居の制作・上演は生涯学習の一環として始まり、現在まで続いています。毎週1回の制作会で丹精込めて作られた紙芝居を、年間約60回上演しています。

皆さんにとって、富士宮市地域女性連絡会とはどんな場所ですか？



▲富士宮市地域女性連絡会の皆さんと議会だより編集委員



▲取材の様子

メンバーは、この会には本音で語り合える仲間がいて、その存在が心の支えや大きな活力になっており、また、地域の歴史や文化を学ぶ楽しさは、私たちに新たな刺激を与えてくれ、皆で協力して一つの作品を創り上げる達成感は、何物にも代えがたい喜びであると、活動を通じて得られる成長と喜びを語ります。

さらに、「無理なく楽しく、そして着実に、この活動を次世代へとつないでいきたい」と語る言葉には、地域への深い愛情と、持続可能な活動への強い思いを感じました。

作品「風祭川」に秘められた物語

紙芝居「風祭川」の制作者の一人が、アイデアが浮かばず悩んでいたところ、友人に誘われ伊勢神宮の風宮を訪れた時の不思議な出来事を教えてくれました。

「友人に誘われて伊勢神宮の風宮を訪れたのです。するとそこで風が



▲代表の土屋善江さん

吹き、まるで導かれるように、玉ぐしほどの枝が目の前に落ちてきたのです。さらに、帰り道では白い馬に遭遇し……。その瞬間、『神様を乗せて白い馬が降り立つ』というイメージが鮮明に湧き上がり、作品制作の大きなきっかけとなりました。」この神秘的な体験が、作品に深みを与えたと言います。

市民の方々へのメッセージ

共に地域の未来を創造しませんか

会員の皆さまは、「私たちは、皆様と一緒に楽しく活動し、富士宮の豊かな歴史と文化を次世代へつなぐため、力を尽くしていきたいと願っています。今後も、富士宮市地域女性連絡会の活動を続けていくため、共に活動してくれる仲間を増やしていきたい。」とおっしゃっていました。

地域への深い愛情と、文化伝承への使命感を持って活動が続ける富士宮市地域女性連絡会。彼女たちの真摯な取組が、これからも富士宮の地域社会に温かい光を灯し、未来へと続く道を切り拓いていくことでしょう。

(文責・仲亀恭平)